



ID: 1261

科目名	体育史【26年度生用】			コード			
英語表記	History of Physical Education and Sport						
担当教員名	池田 恵子			年度	平成26年度		
基準年次	3年次	開講期	前期		単位数		
授業形態	講義・演習	授業形式			履修形態		
授業概要							
<p>体育・スポーツの成立過程を近代化の観点から概観する(1.体育・スポーツの概念史 2.近代スポーツの定義 3.分析のための概念装置について)。とりわけ、スポーツの世界化のプロセス(伝播過程)、スポーツと微細な権力のかかわり、国民統合装置としてのスポーツ、文化人類学的視点、文化帝国主義、文化ヘゲモニーの観点から講義を行う。受講者は、幾つかの小論文の検討を行い、最終レポートを提出する。</p>							
到達目標							
<p>経験知に頼る体育・スポーツ認識から脱却し、体育・スポーツ事象を客観的に理解するための論理的思考を養う。体育・スポーツが世界中に広まった歴史的社会的脈絡、現在の体育・スポーツ事象の位相を捉える。体育・スポーツの将来を展望する上で、歴史の重要性を理解する。</p>							
授業計画							
第1回	ガイダンス						
第2回	体育スポーツの概念史						
第3回	ルーディック・ディフュージョン						
第4回	前近代のスポーツ						
第5回	近代スポーツの展開1:オリンピック						
第6回	近代スポーツの展開2:クリケット、アメリカンフットボール、バスケットボール						
第7回	近代スポーツの展開3:サッカー						
第8回	抵抗の論理1:トゥルネン						
第9回	抵抗の論理2:伝統スポーツ						
第10回	野球とベースボール						
第11回	アスレティズムとジェントルマン						
第12回	思想善導とスポーツ						
第13回	文化帝国主義とスポーツ						
第14回	文化ヘゲモニーとスポーツ						
第15回	まとめと考察						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
最終レポートと授業後半に行う授業内プレゼンテーションから総合的に評価する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				10	60	0	30
授業外学習			テキスト、教材				
授業時まで配布された小論を読解しておくこと。			アレン・グットマン著『スポーツと帝国—近代スポーツと文化帝国主義』昭和堂、1997年。				
参考書			受講生へのメッセージ				
坂上康博『権力装置としてのスポーツ:帝国日本の国家戦略』講談社選書メチエ、1998年。高津 勝『日本近代スポーツ史の底流』創文企画、1994年。他			現代的な事象と思えることにも理由があります。問題の答えを急速に求めるよりも、忍耐強く調べ、知識を得、そこからなぜそうなのか、考えていく力を養いましょう。				
キーワード							